広島大学

外国人児童・生徒の教育

第5回
第5回　4/24 子どもたちの人生から支援の可能性を考える②

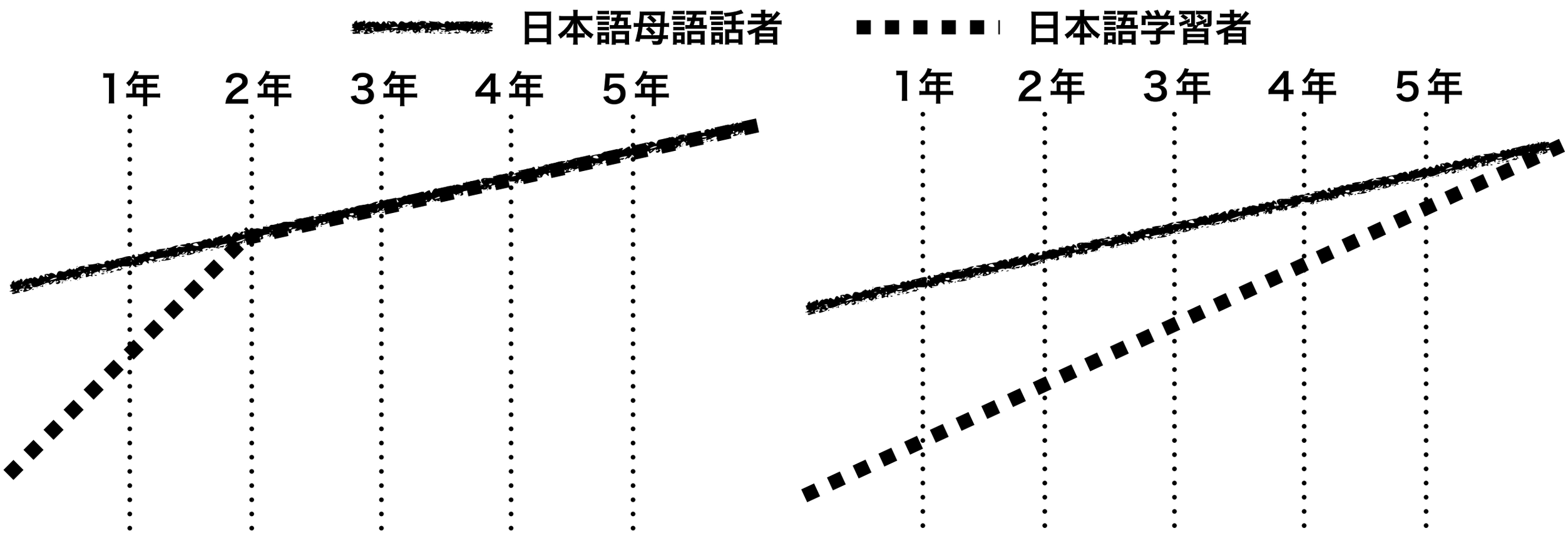
複数言語環境の中で，学力をどう伸ばすのか？

南浦涼介

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
ユニット1 現状と課題を知り「外国人の語学教育」ではないことを知る			ユニット2 子どもたちを知り ことばと文化の多様性に対する対応のあり様を検討する			ユニット3 日本語の教育方法を知り 具体的な授業の発想や思想 具体的なスキルを検討する				ユニット4 学校づくりを知り 多文化共生の地域や学校をどのように構築するかを検討するまとめ				
概要	受入方法	歴史と移動	言語社会	認知と教育	異文化	教科と日本	初期指導	テーマ学習	インクルーシブ	学外連携	共生学校	学校変革	小規模校	まとめ

概念　複数の言語にかかわることは可能性か？　課題か？

なぜおしゃべりは上手なのに学習でつまずくのか？



会話的な言語の力

Conversational Language Proficiency

「BICS」「生活言語能力」とも言われる

1、2年程度で流暢に使えるようになる

アカデミックな言語の力

Academic Language Proficiency

「CALP」「学習言語能力」とも言われる

熟達のスピードはゆっくり
5年～7年くらいかかる

友だちや先生と流暢におしゃべりができていても
教科の学習の場面でも参加ができているというわけではない

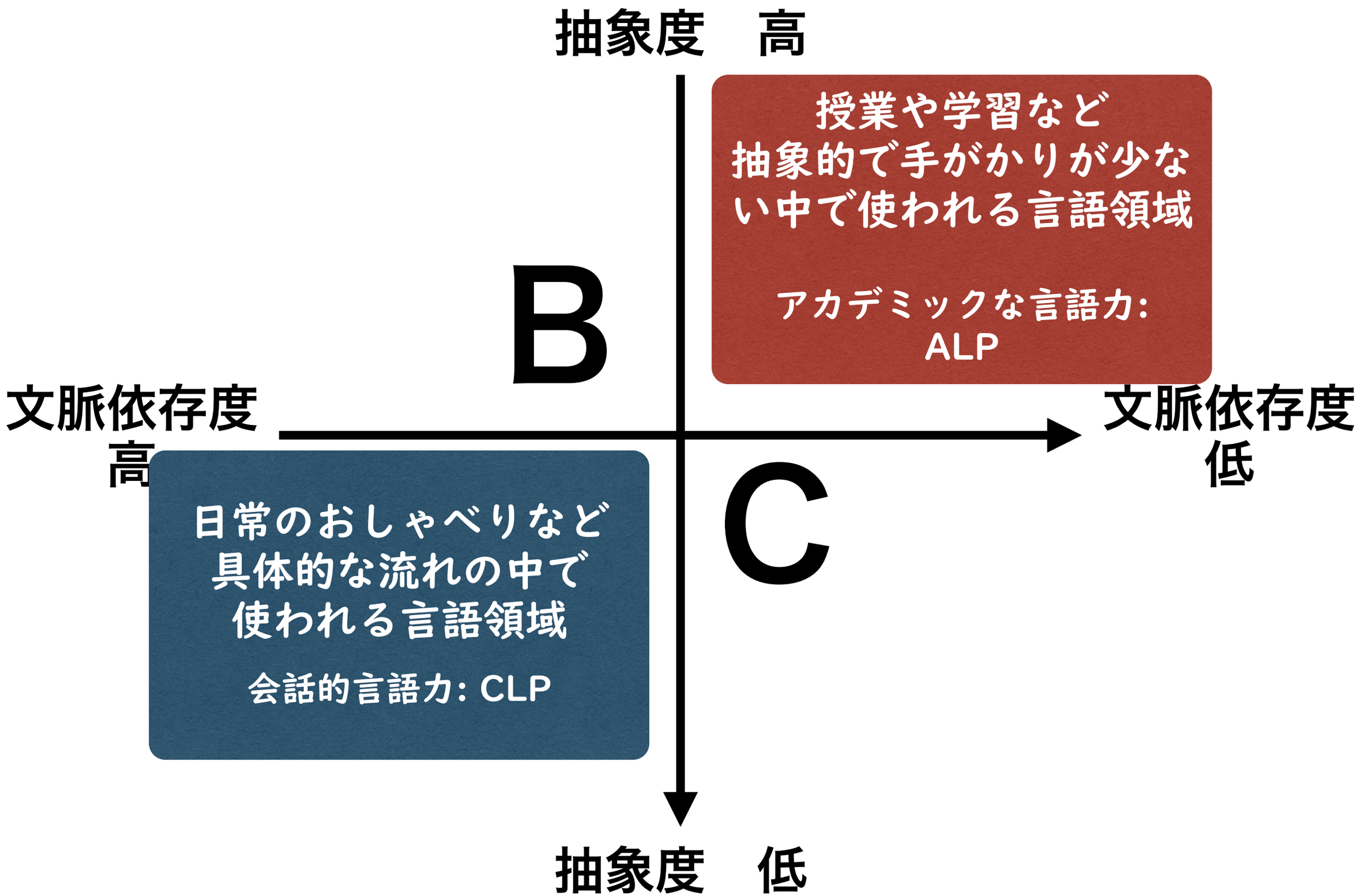
Cummins, J (1981). The Role of Primary Language Development in Promoting Educational Success for Language Minority Students. In California State Department of Education (Ed) Schooling and language minority students: A theoretical framework (pp.3-49), California state Department of Education.

© みなみらぼ

概念

複数の言語にかかわることは可能性か？　課題か？

なぜ教科の学習への参加実現は「時間がかかる」のか？

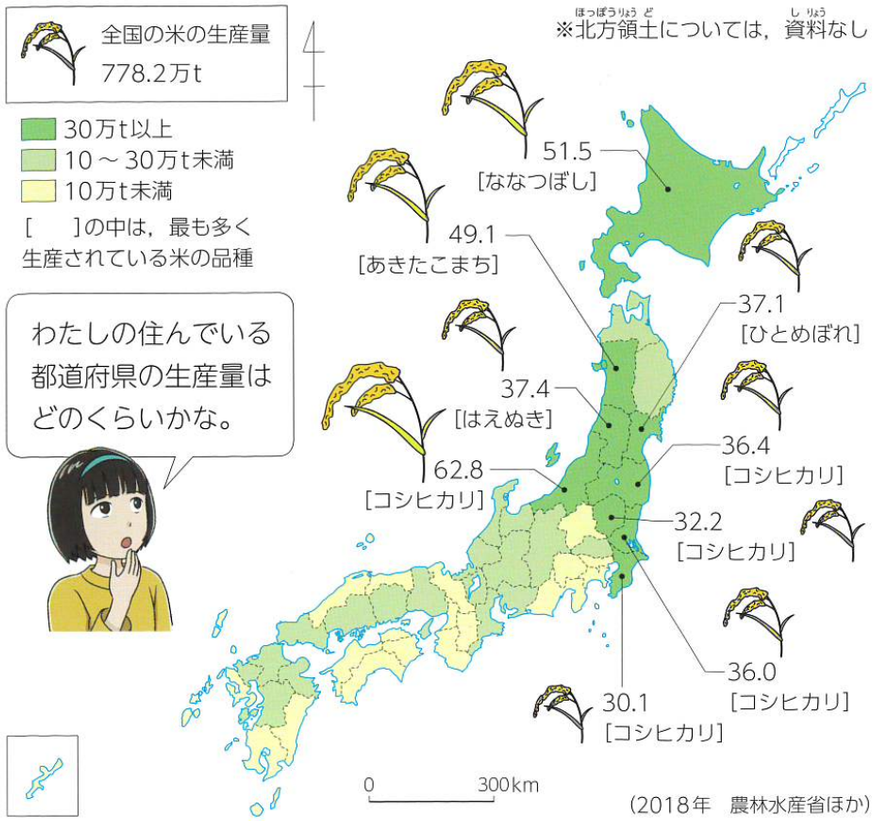


Cummins, J (1982). Tests, Achievement, and Bilingual Education, Focus, 9, 1-7. Washington, DC: National Clearinghouse Bilingual Education. George Washington University.

© みなみらら

小学校5年生社会科 何がアカデミックな言語だといえる？

ウ 都道府県別の米の生産量



（2018年　農林水産省ほか）

稲を水田で育てて，米をつくる農業は，どの都道府県でも行われています。なかでも，新潟県や北海道，東北地方は，米づくりのさかんな地域です。

●米づくりに向いた自然条件

たくさんの稲を育てるためには，平らな広い水田が必要です。また，日本で育てられている稲の多くは「水稲」といい，大量の水を必要とする品種です。そのため，水が豊富であることが求められます。そして，稲が実る夏の時期に，日照時間が長く，昼と夜の気温差が大きいと，ねばり気やあまみのある米が育ちます。

新潟県や北海道，東北地方には，大きな川の下流に広い平野があります。また，冬にたくさんの雪がふり，山の上に積もった雪が春からとけて川に流れこむことで，水不足の心配がありません。そして，夏の昼の気温が30℃以上に上がる地域もあります。このような自然条件がととのっている地域は，おいしい米づくりに向いている場所だといえます。

オ 水を張った水田（秋田県にかほ市）

やってみよう

◆40万t以上生産している都道府県名をノートに書き出してみよう。

エ せまい土地でもつくられている米（徳島県上勝町）

次につなげよう

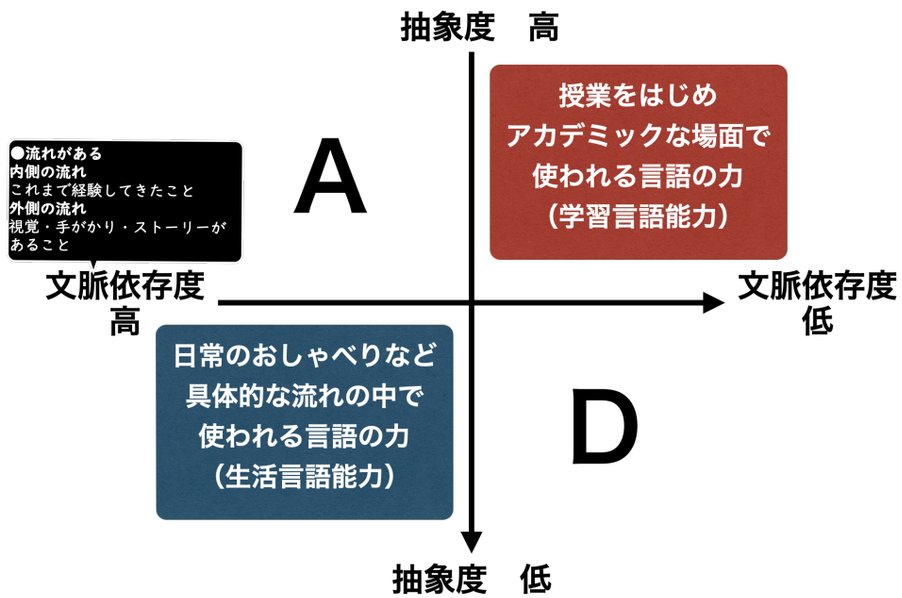
米の生産量が多い，新潟県の自然条件をくわしく知りたいな。

教育出版（2022）『小学社会 5』

© みなみらぼ

学習と言語習得

「学習言語」の力って，何？　どうのばすの？



ただし，一概に「能力」ではない！
その言葉がよく用いられる領域に特有のことば使い（ジャンル）に慣れ，使いこなす力

- HIPHOPのことば使い
- LINEのことば使い
- 中学生の友だち同士の会話のことば使い
- 公文書のことば使い
- 結婚式の挨拶のことば使い

その「領域」特有のことば使いに「不慣れ」か「慣れているか」
では，「学習」を進めるときのことばは，どのような特性があるか？

生活言語（能力）	学習言語（能力）
身近な対面での会話ができることを示すもの	学習する内容のテーマや、そのテーマに関する教室での議論に出てくる話し言葉や書き言葉を，自分がどのくらいで理解して使えるかを示すもの
顔の表情、ジェスチャーや目線，音の雰囲気，直接的な流れによって，意味がつくられる	日常ではあまり出てこない語彙，概念，考え方をつなぐようなことばの表現で意味が支えられている。 名詞化（例：加速度）や，受け身表現が多用される。
日常の会話のやりとりには，訓読みを多用した語彙が用いられる	漢語に由来するような熟語や隠喩表現なども多く用いられる

シュレッペグレル, M.（2017）『学校教育の言語―機能言語学の視点』ひつじ書房.
Cummins, J. (2021). Rethinking the Education of Multilingual Learners: A Critical Analysis of Theoretical Concepts, Multilingual Matters.

© みなみらぼ

授業とは　「教科学習に参加する」ってどういうこと？

でも「参加のしやすい授業」って、そもそもどんな感じ？

ある小学校の日本語の取り出し授業でのエピソード

中国から来た小学校６年生のAさん。日本語教室で，先生と家庭科の宿題プリントを行っている。まだ来て３ヶ月。

日本語教室では，ポケトークを使って先生とやり取りをすることも多い。ポケトークはかなり正確な翻訳をするのだが，ときどき誤訳をする。

昨日食べたものの中で「体の調子を整える」ものに分類しようとして，Aさん，「上海青」と書く。これをプリントに書いた言葉を日本語にしたいのだけれど，ポケトークは「上海青」を日本語にできない。

ポケトークを駆使して子どもが説明し，先生も調べ，それが「上海青菜」という上海郊外で生産される青菜だと判明。「なるほどー」と先生とAさん。ただ，それを今度は日本語でどう書くかで困る。

「上海菜」にするといい感じ。でも担任の先生はこれじゃわからないかも知れない。「上海の青菜みたいなもの」とするべきかどうか…　最終的に後者に。

© みなみつらぼ

授業とは　「教科学習に参加する」ってどういうこと？

でも「参加のしやすい授業」って、そもそもどんな感じ？

外国につながる子どもたちの多い小学校でのクラスでのある授業場面

「安全な街づくり」という授業で，「危険そうな場面」の絵をモニターで提示。
「危険そうなところはどこ？」を話ながら予想し，話し合う。
「あのヤンチャそうな車は危ない！」などの意見が飛び交いながら「危険予測」をまとめていく

ある小学校での「研究授業」（社会科水産業・輸入・タコの名産地でのA市での授業）

①日本ではタコをどのくらい食べているの？→たこ焼きパックで地球の縦の長さの17倍
②それだけ多いタコを日本だけで捕れるの？　どこから輸入しているの？
　→モロッコ
③どうして日本から遠いモロッコからタコを輸入しているの？
④A市のタコとモロッコのタコはどちらがおいしい？
　→多くの子が食べ比べてモロッコ
⑤モロッコのタコはどうしてA市のタコよりおいしいの？
⑥タコが住みやすいのはどんな海なの？

これらに共通している「参加のしやすさ」とは何？

© みなみうらぼ

授業とは　「教科学習に参加する」ってどういうこと？

「参加のしやすい授業」は
多くの場合「文脈がある」
多くの場合「具体から概念へ」の
流れをもつ

●流れがある
内側の流れ
これまで経験してきたこと
外側の流れ
視覚・手がかり・ストーリーが
あること

高い挑戦

アカデミックな場面で
使われる言語の力

「学習言語能力がないから授業に参加できない」
ではなく
「よい授業は参加を促し、学習言語能力を育てる」

たくさんの手がかり

すくない手がかり

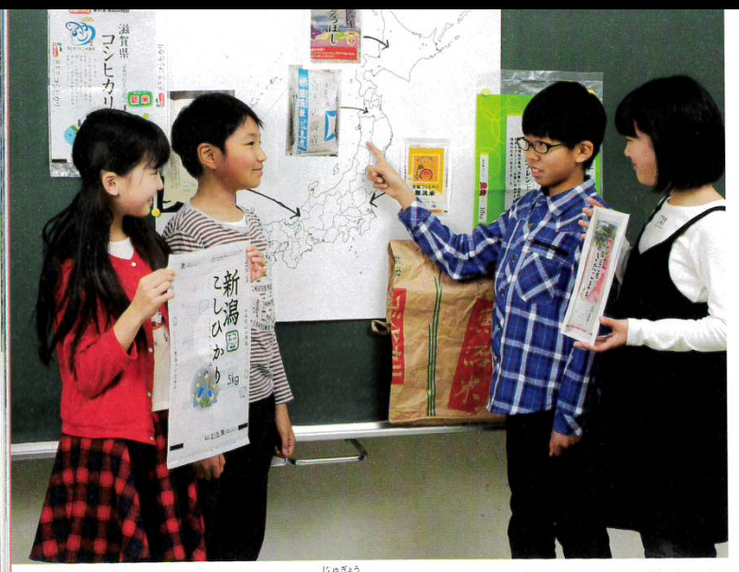
日常のおしゃべりで
使われる言語の力
（生活言語能力）

たしかに教科学習は
抽象的なやりとりもある
が「それだけ」ではない！
いい授業は子どもに合わせた
「そこに至る手がかり」
がつくられている！！

低い挑戦

© みなみらぼ

小学校5年生社会科 何がアカデミックな言語だといえる？



ア 米の産地を調べる　授業の前に，米の産地がわかるものを集めておきましょう。

学びのてびき

米ぶくろから産地を調べる

①米の産地がわかるものを集めておく。
- 家庭にある米ぶくろの実物，もしくは写真（うらの表示なども写真にとっておく。）
- 米屋やスーパーマーケットの広告，パンフレット（インターネットでさがしてもよい。）

②都道府県ごとに分類して，白地図にはりつける。

1 米づくりのさかんな地域

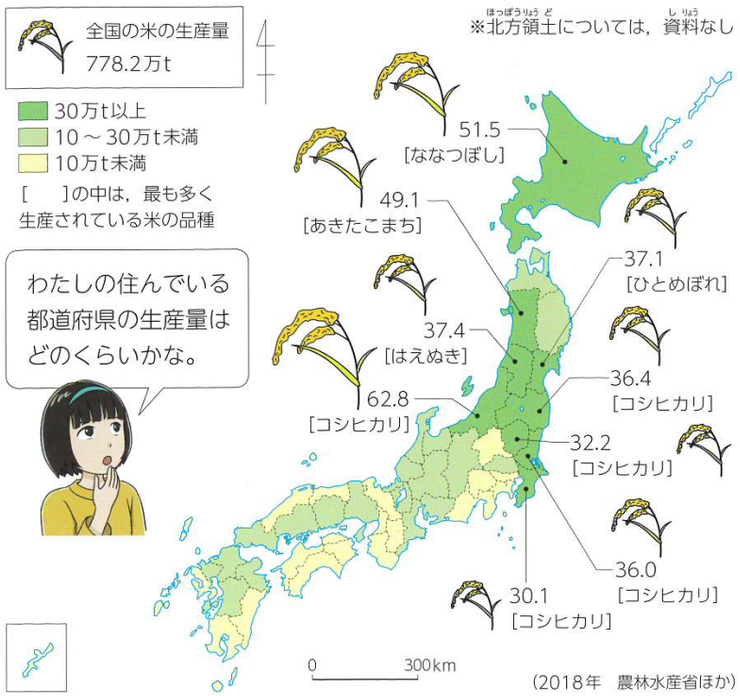
この時間の問い

日本の米の主な産地はどこなのだろう。

米はどこから？　あおいさんたちは，米ぶくろや店のちらしなどを集めて，米の産地を調べることにしました。都道府県ごとに分けて整理すると，国内のさまざまな地域で米がつくられていることがわかりました。

イ 生産者の顔が見える米ぶくろ

ウ 都道府県別の米の生産量



稲を水田で育てて，米をつくる農業は，どの都道府県でも行われています。なかでも，新潟県や北海道，東北地方は，米づくりのさかんな地域です。

やってみよう

◆40万t以上生産している都道府県名をノートに書き出してみよう。

エ せまい土地でもつくられている米（徳島県上勝町）

次につなげよう

米の生産量が多い，新潟県の自然条件をくわしく知りたいな。

オ 水を張った水田（秋田県にかほ市）

●米づくりに向いた自然条件

たくさんの稲を育てるためには，平らな広い水田が必要です。また，日本で育てられている稲の多くは「水稲」といい，大量の水を必要とする品種です。そのため，水が豊富であることが求められます。そして，稲が実る夏の時期に，日照時間が長く，昼と夜の気温差が大きいと，ねばり気やあまみのある米が育ちます。

新潟県や北海道，東北地方には，大きな川の下流に広い平野があります。また，冬にたくさんの雪がふり，山の上に積もった雪が春からとけて川に流れこむことで，水不足の心配がありません。そして，夏の昼の気温が30℃以上に上がる地域もあります。このような自然条件がととのっている地域は，おいしい米づくりに向いている場所だといえます。

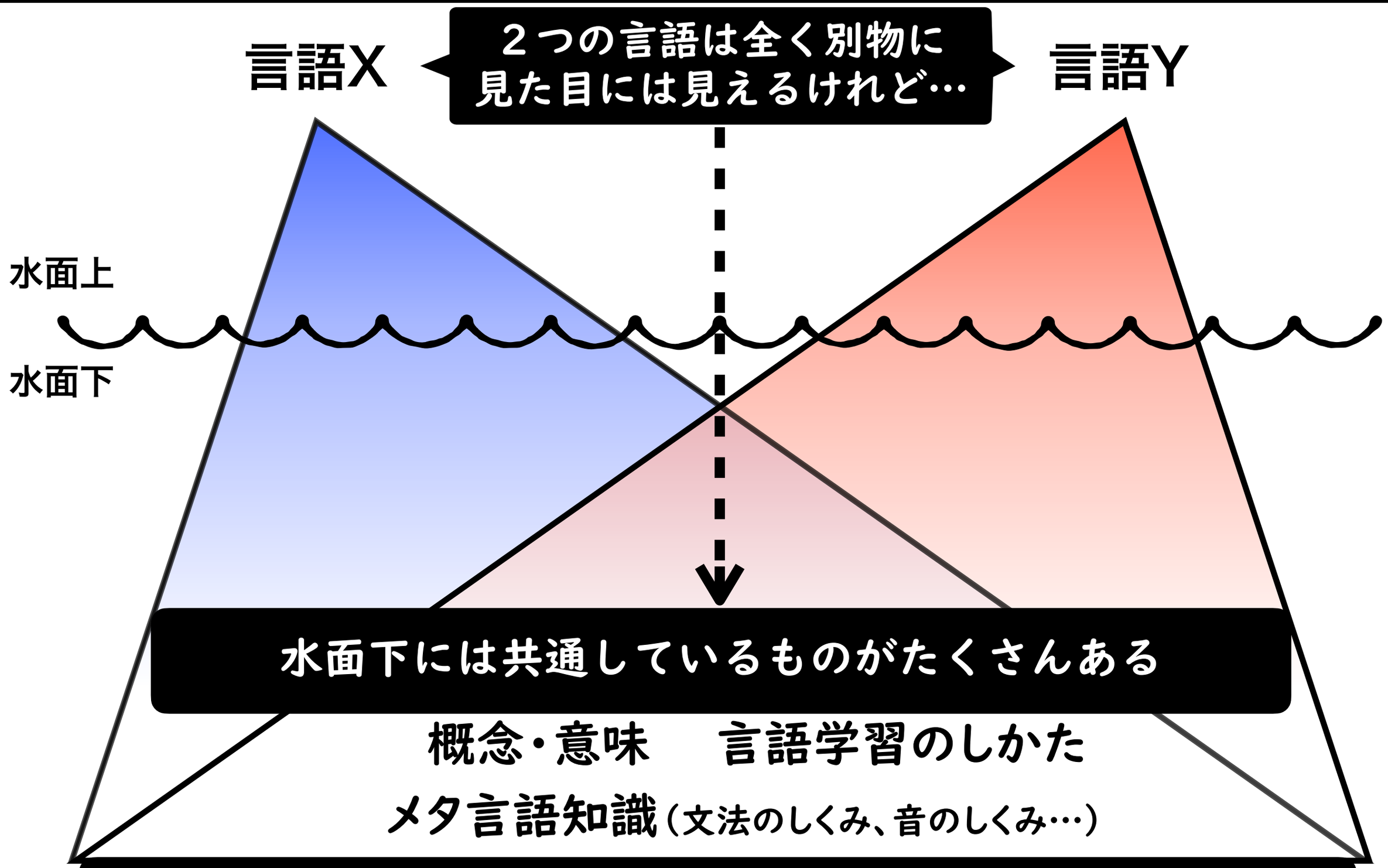
教育出版（2022）『小学社会 5』

© みなみらら

概念

複数の言語にかかわることは可能性か？　課題か？

複数の言語はあなたの中で「つながっている」こと



結果的に，ことば，認知，見方や考え方も拡張していく
双方のことばも関連づいて成長していく

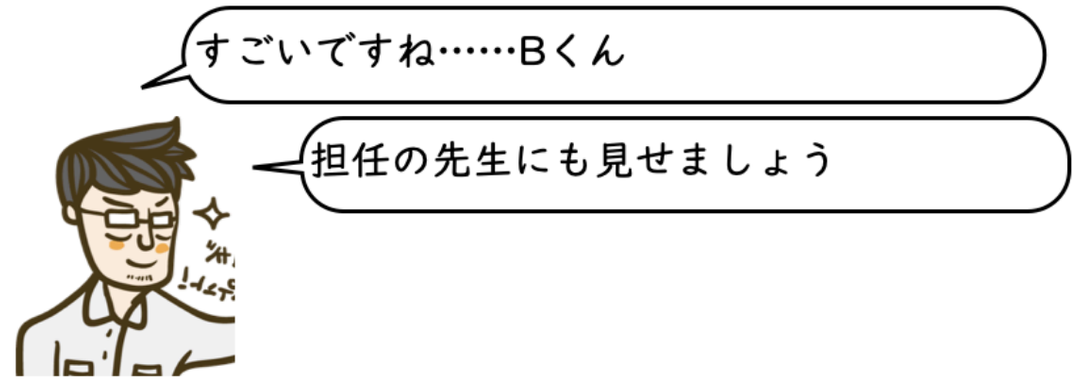
学習と言語習得

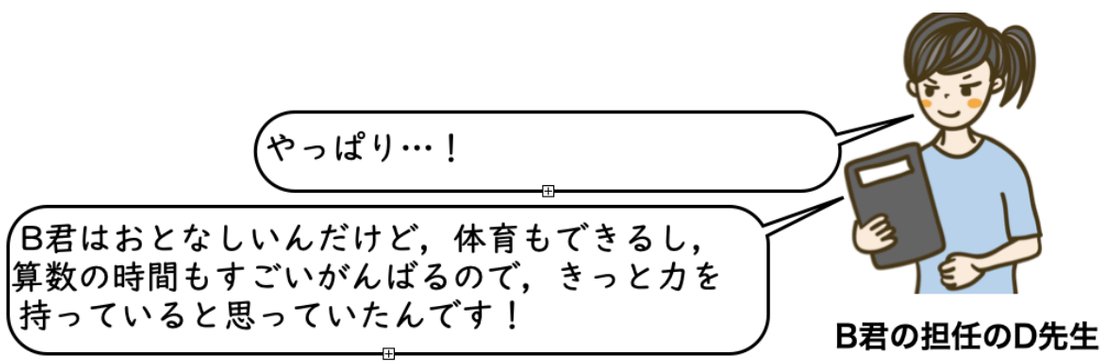
（大人が）日本語だけにとらわれていませんか？

教師の目には「日本語」の側面しか往々にして見えない。
子どもたちは「もう１つのことば」を持っており、それを促していくことも大事

C女士へ
今天的这则故事我觉得很不错,特别是我觉得台语可能有影响到福州的口语,今天洪女士在讲故事时,无意中吐露出台语“暗momo”我发现福州也有定种说法,谢谢您｜B在下

Cさんへ
今日聞いたこのお話は，とても良かったです。特に思ったのは，台湾語は，福建の話し言葉に大きな影響を与えた可能性がある，ということです。今日，Cさんがお話をしていたとき，無意識だと思うのですが，台湾語で「暗momo」と言っていましたね。それで僕は，福建にもこの話し方があることに気づきました。本当にありがとうございました。また私たちの学校に来てください。
Bより





「流れがある」「具体から概念を掴む」学習プロセスが組み立てられていること

子どものさまざまな個の資源（例　複数言語）を駆使して学ぶ保障をすること

© みなみらぼ

授業とは　「教科学習に参加する」ってどういうこと？

「学習言語能力がないから授業に参加できない」
ではなく
「よい授業は参加を促し、学習言語能力を育てる」

高い挑戦

「参加のしやすい授業」は
多くの場合「文脈がある」
多くの場合「具体から概念へ」の流れをもつ

●流れがある
内側の流れ
これまで経験してきたこと
外側の流れ
視覚・手がかり・ストーリーが
あること

アカデミックな場面で
使われる言語の力
（学習言語能力）

たくさんの手がかり

すくない手がかり

おしゃべりなどで
使われる言語の力
（生活言語能力）

たしかに教科学習は
抽象的なやりとりもある
が「それだけ」ではない！
いい授業は子どもに合わせた
「そこに至る手がかり」
がつくられている！！

低い挑戦

© みなみらぼ

1 グエンさんのライフコースの概要を描く

0歳　5歳　10歳　15歳

4歳　7歳　13歳　16歳

移動のこと

学歴 職歴のこと

- 日本の保育園入園
- 日本の小学校入学
- 日本の中学校入学
- 日本の定時制高校
- 専門学校の経理関係
- ベトナム関係の輸入企業就職

日本語学習との関連

- 日本語は遊んでいるうちに獲得
- 家庭ではベトナム語
- 日本語のおしゃべりはできるけれど勉強には理解できていない
- 日本語指導は必要ないと判断
- ３、４年生になると勉強についていけなくなる
- 日本語指導を勧めるが特別扱いされていると思い、嫌がる
- 学力の問題が深刻化
- 母語のベトナム語は日常会話以上には発達しなかった

人生のエピソード

- 両親はインドシナ難民として来日
- 日本語が片言の両親との溝が顕在化
- 誰も理解してくれない！
- 地域の日本語学習教室の支援員さんの一言
- 自分が通っていた外国人住民の日本語教室で子どもたちをサポート

© みなみらぼ

4 改めて子どもの学齢期の人生から全体を捉えて支援を考える

①エピソード２or3を選んで読む
②読んだ上で「それぞれの問いに対する解」を考える
③お互いのエピソードを共有する

Ep2
「私はみんなといっしょに勉強したいのに」

教師の配慮と子どもの気持ちのすれ違い
どんな「参加を促す支えや手がかり」を用意するか？

社会科の授業で日本の戦国時代の武将についてのグループ学習
グエンには難しいと判断して、担任の先生は日本語教室へ行かせた。
ところが、グエンさんは「行きたくない」という――

Ep3
「お母さん、ベトナム語話さないで！」

母語・母文化に対する態度、親子間のコミュニケーションの断絶
悩む保護者に，揺れ動く本人に，どんなはたらきかけをするか？

修学旅行のための買い物に母親と行く。母親がベトナム語で百貨店で話しかけたが、グエンさんは「お母さんベトナム語話さないで！　恥ずかしいから！」という――

言語発達と成長

人としての子どもたちの成長と発達の観点

言語の社会の中でのパワー

どの言語が価値を持つかは社会のありようで決まる

移動とアイデンティティ

移動する中で自分のアイデンティティは変化する

© みなみらぼ